健康と光線

発行所
〒153
東京都目黒区目黒
4—6—18
サナモア光線協会
年4回発行
会費 年500円
電話 東京（03）
793—5281
712—5322

光線療法の目的

サナモア中央診療所
医学博士　宇都宮　光明

光線療法の歴史

医学の歴史を顧みると、人類は既に数千年前から太陽光線の化学的、物理的エネルギーを保健、治療の目的を以て医療に応用しています。その後、日光療法の時代を経て、ニールス・フィンゼン（一八六〇—一九〇四）が太陽光線に変わるものとして、強力なエネルギーを持ち、量的に調節が可能な人工光線を放射するカーボンアーク灯を開発し、臨床的に始めて治療価値を実証しました。彼はこの功績により、一九〇三年のノーベル医学生理学賞を受賞しました。

フィンゼンが目指した光線療法の効能に共鳴した宇都宮義真は、昭和七年に㈱東京光線療法研究所を創設し、以来今日まで、フィンゼンが創案した原理を改良したサナモア光線の啓蒙、普及に努めてきました。

現代医学の課題

現代医学が様々な面で人類の福祉に貢献していることは言うまでもありません。殊に近年、診断学は長足の進歩を遂げましたし、戦後の化学療法、手術療法の進歩は目を見張るものがあります。然るに、巷には一億総半健康なる言葉が市民権を得て徘徊しています。この理由は最近の病気の変遷を抜きに考えることは出来ません。即ち、現代医学は感染症を始め外因によって起こる病気を克服してきましたが、反面、アレルギー疾患、成人病など内因が関与する病気には適切有効に対応する手段に乏しいため、慢性の経過をとる病人が取り残されてしまったのです。その要因として、現代医学が余りに病気を中心に発達したため、病人（宿主）を全体として捉えないことにあります。これが病気に効く薬がなく手術ができないと治療法がないと決め付けてしまうことにつながります。病人が自ら持つ自然治癒力を高める方策をないがしろにし過ぎています。

一方、光線療法は生体を一つの有機体として捉え、生体の様々な機能を調整し、以て抵抗力や自然治癒力を高めようとする治療法です。この光線療法の生みの親は日光浴です。日光浴は天気さえ良ければタダで出来ます。しかし、極めて残念なことですが、最も日に当たる機会を奪われている入院患者に日光浴を奨める医師は殆どおりません。

光線療法の目的

光線療法は物理療法の範疇に属する治療法です。この物理療法の主要な分野に運動療法がありますが、体力増強、健康増進、疾病治療に有効なことは長い経験から知られています。この点、光線療法の有効性と相似しています。ただ運動療法の効果を科学的、論理的に分析しようとしても現在の医学水準では無理があるように、光線療法の原理を完全に解明することも現状では不可能です。しかし、光線療法によって現実に健康を取り戻した例や、現代医学においては手に余るような疾病の自然治癒を促す例が数多く報告され、何人と言えども、実際に光線療法の効能効果を体験すれば否定できないことも事実です。

光線は生体の総ての機能に関わっていますので、およそ光線なしで健康に生きることは出来ないのです。然るに私達は文明のため刻々と太陽から遠ざかっています。その結果、私達の健康もまた刻々と蝕まれています。

一例をあげますと、生体には外部環境が変化した際に、自律神経や内分泌系の作用によって内部環境を一定に保とうとするホメオスターシス（生体恒常性）と呼ぶ機能があり、また受けた情報を処理し、その結果に応じて自己調節するフィードバック・メカニズムと呼ぶ機能があります。カルシウム代謝について述べるとビタミンDと呼ぶホルモンがあってこそ、ホメオシターシスもフィードバック・メカニズムも正常に作動するのです。もしもビタミンDが不足すれば、食事でどれだけカルシウムを摂ってもカルシウム代謝が円滑に営まれることはなく、骨の粗鬆化（脆くなること）を促し、成人病の誘因になります。

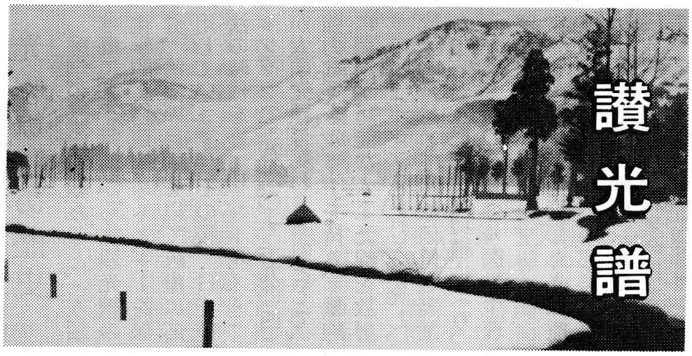
おわりに

現存する多種多様な治療法には各々特徴があり、当然、得手不得手があります。その中で、光線療法は対症療法としての効果だけでなく、自然治癒力を高める面で有益な治療手段として認められています。しかし、主に機能面に作用するが故に、光線療法の効能は現代医学の方法論では解明しにくい点もあることは率直に認めざるを得ません。そのため一部の医学者が光線療法の広範な効果を認めないとしても、確かな効果があればこそ存続してきたのであり、実践しているうちに現代医学の盲点をつくような意外な効用があることも分かってきたのです。今、光線療法は現代医学の利点を助け、欠点を補う観点から、最も新しい治療法でもあります。

あけまして
おめでとう
ございます

平成二年　元旦
サナモア光線協会
（五日より営業します。）

讃光譜



「雪国」
宇都宮義真撮影

病気か病人か

宇都宮　義真

萬病の原因

身体が病気に負けるのが萬病の原因です。従って、病気の治療法には病気を弱くする方法と身体を強くする方法と二つあります。病気を弱くする方法は病気によって異なりますが、身体を強くする方法は萬病に共通ですから、何時でも、何処でも活用できます。

薬の功罪

薬の多くは病気を弱くするために使われますが、時として身体を弱めてしまうことがあります。俗に薬を「毒を以て毒を制す」と毒に譬えますが妙を得ています。ただし毒はあくまでも毒です。肥料も与えすぎればマイナスになります。薬の功罪は半ばすると言われる所以でしょう。

対症療法

大抵の人は、病気は病人を苦しめるものと思っていますので、苦しくないと病気と思いません。そこで対症療法が発達したのです。解熱剤や鎮痛剤は、確実に病人の苦しみを和らげますが、病気を治す作用は全くありません。病気を治すのは、病人自身の身体なのです。でもアスピリンで風邪が治ると感違いしている人や、モルヒネを胃痙攣の薬と思っている人は案外多いのです。

時に病人に有害な作用を及ぼすことがあるとしても、症状を一時楽にする対症療法は広く用いられています。でも余り症状に囚われ過ぎて肝腎の病人を忘れては、病気の真の治療になりません。発熱、疼痛、下痢、咳嗽、不眠、高血圧等の症状にしても、言わば病気の陰であっても、病気そのものではありませんから、根本から病気を治さない限り症状は繰り返します。

カゼは萬病の元

冬は流行性感冒（流感）、即ちインフルエンザが流行る季節です。流感に代表されるカゼ症候群の症状は、いろいろな病気の初期症状と区別できないことが間々ありますので、ほっといて一週間以内に治ればカゼとし、長引くと他の病気を疑うことになっています。ところで流感でも普通感冒でも、熱が出たり頭痛がすると慌てて解熱剤を飲む人がいますが、一時的に薬にしてもカゼを治すわけではありません。反面、解熱剤の副作用で死んだ人は少なからずおりますので、無闇に飲むことは慎んだほうが無難なようです。

流感にはサナモア

カゼの発熱はつらいものですが、熱は敵でなく味方なのです。熱は病原菌を弱くしますので、解熱剤を飲んで一週間位で治るものなら飲まなければ二、三日は早く治ります。熱病にかかると性病が治ることがありますが、これもそのためです。

一方、光線療法は病人の白血球や免疫系の働きを強くして病原菌を弱めることが出来ますし、また副腎皮質ホルモンの分泌を盛んにしますから、身体の復元力が強くなり、消耗を防ぎ、病気が治り易い身体にします。サナモアを照射すると解熱するのは、解熱剤で解熱させるのと違って、身体を内部から熱して抵抗力を強くするために発熱する理由がなくなるからです。

「健康と光線」
昭和27年7月5日発行
―病気か病人か―
「健康と光線」
昭和44年1月5日発行
―カゼにはサナモア―
より要約した。

》私の回想録《

サナモアと四十七年

ウエノ光線療研 上野 貞

古い手紙を見て

最近、手紙の整理をしていましたら、先代の宇都宮義真先生からいただいた古い手紙が出てきました。すっかり忘れていたのですが、大先生よりはげまされ、ほめられた手紙です。昭和四十二年八月十五日の日付ですので、もう二十年以上も前のものです。

「また敗戦記念日が来ました。戦後、急に生活が変わって皆まごまごしていた時に、光線療法を志して熟慮断行された奥さんの卓見と勇気に敬服します。あれから二十余年、途中で挫折して最後までやりとげた人が少ない中に、奥さんはすくすく大きく成長されました。でも安定されるまでには色々なことがありましたね。奥さんが私の大分の仮の住まいに来られたり、健太郎さんが東京の仮の住所に来られたり、創業時代の御苦労は並大抵ではなかったと思います。

しかし販売台数五百台を記念して開いたサナモア愛用者大会の頃には、やっと目鼻がついた感じでしたね。それからは順風満帆、一路平安、顧みて悔いなしというところでしょう。全く大事業を成し遂げたのですから、これからは余り無理をなさらず、百五十歳位まで大いに人生を楽しんで下さい。」

（編集者注・上野健太郎先生は上野貞先生のご長男です。）

手紙の販売台数五百台記念大会というのは、神戸に宇都宮義真先生をお迎えして、昭和三六年七月二十五日に繊維会館で開いたサナモア愛用者大会のことです。先生の分かりやすい懇切熱心な講演があり、大食堂で先生を囲んで皆さんと一緒に会食を致しました。先生がおっしゃるようにそれまでは無我夢中でした。思い出すと感無量です。

脳梗塞で倒れる

私も八十六歳になりました。私がこれまでの人生で患った病気のなかで、これは大変なことになったと思ったのは、八十二歳で脳梗塞で倒れた時です。

昭和六十年一月三十一日の午後十一時過ぎに、急に左半身が利かなくなりました。直ぐに息子の健太郎を呼び、その場で服を着たまま、頭に二時間、足裏に二時間、光線療法をしてもらいました。その間、私は眠っていました。二月一日の朝五時頃、やっとパジャマに着替えさせてもらい布団に移りました。

私は入院しないで医師に往診してもらいながら、朝夕サナモア光線療法を続けました。カーボンはABとADを交互に使い、足裏、小脳（後頭部）、大脳（頭頂部）、腹、膝、眼、腰、背など全身に懸命に照射しました。

二月末には杖をついて歩く稽古を始めるところまで回復しました。三月になり手足の動きが少しづつ良くなりましたが、医師から下の血圧が少し高いから無理をしないように注意されました。三月末には室内なら杖なしで歩けるようになり、日に日に快方に向かい経過順調です。五月二十一日には脳の後遺症を調べるため、市内の病院で脳のCT検査を受けましたが、CTには異常なく、貴女の脳は二十歳は若いと保証してくれました。

倒れてから半年が過ぎ、外出できるようになって喜んでいました。ところが外出先で硬く揚げたものを食べてから二、三時間した頃、病み上がりで胃腸が完全に働かなかったのと、年のせいもあると思いますが、急に胸が悪くなり、救急病院で胃の洗浄をして貰う羽目になりました。それで胸の気持ちの悪さはとれましたが、脳梗塞の再来みたいに左半身がしびれてきました。しびれは以前よりは短かったのですが、再び身体がふらつき、階段の上り下りが不自由になりましたので、それからは杖をついて外出しています。

自分が病気をして、自分で自分を守る心掛けが足りなかったと反省しています。でも脳梗塞で倒れたことで、一層サナモア光線の効果を確信出来ました。今は内臓はどこも悪いところはありませんが、毎日二度サナモア光線の治療をしています。

義真先生の十三回忌法要にあたって

大先生にお会いしたのを昨日のことのように思い出します。しかし光陰矢の如しで、平成一年十月二十二日、先生の十三回忌法要がいとなまれました。私は健太郎ともども参列致しました。

過ぎ越しかたのことが走馬燈のように思い出されます。サナモア光線療法の普及を生涯の仕事と決めて四十七年になります。これまでに数多くの人々に喜んで貰い、充実した生活を送ることが出来ましたのも、偏に先生のご指導があったればこそです。お蔭で今日まで無事に過ごすことが出来ました。そう言えば先生の口癖は百二十五歳寿命説でした。これからもサナモアと共に健康に留意して、百五十歳とは申しませんが、百二十五歳までは大いに頑張るつもりです。これも大先生とサナモア光線のお蔭と感謝致しております。

症の四治験例

光線治療院　海渡　一二三

多発性硬化症は中枢神経系に多発性の脱髄巣を生じる疾患ですが、未だ有効な治療法がないことから難病（特定疾患）に指定されています。本症の好発年齢は十五歳から五十歳の間にあり、約九十％はこの間に発病します。患者の訴える神経症状は病巣の部位によって様々ですが、明らかに異なる二か所以上の病巣に起因する障害を認め、緩解と再発を操り返しながら十年から二十年の経過をとって進行します。

多発性硬化症

ところで本症は日本を含む温帯地方では稀なこと、また患者が熱帯地方に転地して積極的に日光浴をすると病状の改善する例があることが知られており、地理病理学的に光線の効果が示唆されています。それにも拘わらず、これまで人工光線による光線療法の効果は殆ど検討されておりません。今回、私は多発性硬化症の四症例で、サナモア光線療法の効果を検討する機会がありましたので、その成績を報告します。

（今回の報告の一部は、先に本紙に発表しました。掲載紙は以下の通りです。

昭和五十五年一月一日・第二一六号
「光線療法が奏効したと思われる多発性硬化症の一例」
昭和五十八年一月一日・第二二八号
「多発性硬化症と光線療法」

自験症例について

これまでに経験した四例の多発性硬化症の診断は、いずれも病院で受けたものです。自験例の年齢、性別、職業、発病年月日、初診年月日、光線療法を始めるまでの罹病期間を**表1**に示しました。

光線療法を始めるまでの罹病期間は最短一ケ月、最長三年ですが、この間、四例とも症状の明らかな改善は認めていません。

また自験例の初診時の症状を**表2**に示しましたが、視力障害、言語障害、歩行障害、排尿障害、精神障害など多彩な神経症状を呈していました。

光線を全身に照射

主にAカーボンとBカーボンを組み合わせて使いましたが、その時の容態に応じてAC、AAなども使いました。照射法の基本的な事項をまとめますと、同時に二台の光線治療器を使う二灯照射を行い、肛門、腰、腹、顔、足裏、膝、後頭部、耳、肩、横腹、膝の外側、頭頂部などに各々10分前後照射しました。なお病状によって部位、時間とも多少変更しましたが、照射にあたり特に強調したい点は必ず全身に照射するようにしたことです。

なお一般的注意として、煙草と酒を禁じました。

治療成績

治療成績を**表3**に示しましたが、各々の症例について説明します。

☆症例1　36歳男性
全経過11年7ケ月。

大学病院に入院中、病院の許可を得て来院しました。初診時の主な神経症状は、排尿や歩行が意のままにならない、相手の話は分かるが話そうとすると言葉が途切れ途切れになって思うように話せない、手足のふるえなどで、視力障害は認めません。その他に、他覚的には薬の副作用によるムーンフェイス、いわゆる満月様顔貌と発疹を認め、自覚的には腰痛、関接痛を訴えていました。

本例で光線療法を始めてから最初に認めた著しい変化は排尿が容易になったことで、このた↖

例

年月日	初診・年月日	光線療法を始めるまでの罹病期間
3年2月	昭和53年4月	2ケ月
4年1月	昭和54年2月	1ケ月
5年5月	昭和57年3月	1年10ケ月
9年4月	昭和62年4月	3年

診時症状

例2	症例3	症例4
+	++	++
+	+	+
±	+	+
+	−	−
−	++	−
±	++	±
+	+	++
+	++	++
+	+	+
+	++	±
+	++	±
+	+++	+++
±	±	±
−	−	++
−	±	±
±	++	++
+	++	+++
−	−	+
	耳鳴り 発疹 四肢の冷感 気管支炎	不眠 全身倦怠感 発疹 無月経

療成績

緩解に至るまでの期間	再発	改善した症状	治療効果
6ケ月	あり		有効
6ケ月	なし		有効
1年5ケ月	なし		有効
?		顔面神経麻痺 言語障害 不眠・無月経	やや有効

↘め病院の許可を得て治療器を病室に持ち込み治療した結果、二、三ケ月で自発尿が可能になり、病院の投薬が中止されたためムーンフェイス、発疹とも消失しました。三、四ケ月で主訴は軽快し、六ケ月後には殆ど無症状になったため、治療院での照射は八ケ月で中止し、以後自分で光線照射を続けるように指示しました。その後の経過は順調でしたが、一昨年、再び一時的に排尿困難を起こしましたが間もなく改善し、現在は完全緩解の状態にあり、健康人と変わらぬ生活をしています。

☆症例2　39歳男性
全経過10年9ヶ月。

初診時の主訴は、手足のふるえ、腰や足が強張り歩行が不自由、視力の低下、排尿障害などです。なお発病の前に急に太ったとのことです。

本例は三ケ月の治療で強張りが改善して歩行が容易になり、排尿障害も改善し、このまま緩解に入るかと思われましたが、四ケ月後に再び症状が悪化しました。しかし、その後はそれまでより厳格に光線療法を行った結果、六ケ月で緩解に導入できました。それから十年以上になりますが再発はありません。

☆症例3　48歳男性
全経過7年8ヶ月。

この症例は特に歩行障害が強く、自力歩行は困難で日に何度も転ぶため、あちこちにアザを作っていました。他に視力低下、排尿障害、ろれつが回らない、胸が締め付けられるように痛い、手足のふるえやしびれ感、頭痛、めまい、耳鳴りなど多彩な神経症状を訴えていました。また発疹を認め、手足とも異常に冷たく、気管支炎を併発していました。

本症例は治療を始めて三ケ月を過ぎる頃から自力歩行が可能になり、無理に四ケ月で職場に復帰しました。しかし、軽度の神経症状はそれ以後も長く残存しており、緩解導入には一年五ケ月を要しました。なお緩解導入後の経過は極めて順調で再発は認めません。

☆症例4　23歳女性
全経過2年7ヶ月。

初診時に目立った所見は、顔面神経麻痺で口元がゆがみ、手足はふるえ、歩行障害、視力の低下、言語障害、頭痛、めまいなどです。また気分が滅入って鬱状態にあり、不眠、全身倦怠感を訴えていました。その他には発疹、無月経がありました。

この症例は光線療法を始めてから二年七ケ月になりますが、現在も部分的な改善に留まっており、光線治療のため通院しています。今も認める神経症状は、視力の低下、振戦、歩行障害などですが、初診時には認めた顔面神経麻痺、言語障害、鬱状態、不眠などは改善しています。また生理も二ケ月に一回は来るようになりました。

考　案

ゴールドバークは、多発性硬化症の罹病率が、欧州やアメリカで緯度が高くなるほど低いこと、スイスは高地で低いことから、紫外線に予防効果があると報告しています。クレリウスはゴールドバークの研究を追試確認すると共に、実験的に紫外線を遮断してカルシウムを欠乏させることによって、神経線維を囲む髄鞘が脱落する（脱髄）ことを明らかにし、多発性硬化症と同じ神経障害を再現しました。加えて冒頭で述べたように、日照地帯への転地療養が治療に役立つ可能性が指摘されています。

私はこれらの研究を勘案した上で、このたび経験した多発性硬化症の四症例にサナモア光線療法を行い、有効三例、やや有効一例の結果を得ました。

結　語

極めて難治な疾患として知られている多発性硬化症の四例にサナモア光線療法を行った結果、明らかな効果を認めたので知見を報告しました。

（この報告は第一回日本療術学会で発表した内容をまとめたものです。）

（〇四四―七二二―五〇六七）

多発性硬化

川崎市　東京

表1　症

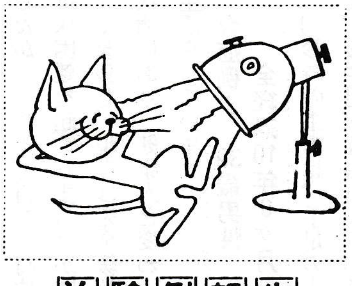
	年齢・性別	職　業	発病
症例1	36歳・男性	農　業	昭和
症例2	39歳・男性	農協役員	昭和
症例3	48歳・男性	会 社 員	昭和
症例4	23歳・女性	学　生	昭和

表2

	症　例　1	症
頭痛	−	
食欲不振	＋	
めまい	＋	
筋肉痛	＋	
帯状疱	−	
しびれ感	−	
企図振戦	±	
手足のふるえ	＋	
運動失調	＋	
膀胱直腸障害	＋＋	
排尿障害	＋＋＋	
歩行障害	＋＋	
運動麻痺	±	
顔面麻痺	−	
感覚異常	±	
言語障害	＋＋	
視力低下	−	
精神の異常	−	
その他	ムーンフェイス（満月様顔貌）発疹・腰痛 関節痛	肥満

表3　治

	光線療法を始めてからの全経過	現在の状態
症例1	11年7ケ月	完全緩解
症例2	10年9ケ月	完全緩解
症例3	7年8ケ月	完全緩解
症例4	2年7ケ月	視力低下 振戦 歩行障害



治験例報告

☆変形性脊椎症

腰椎椎間板ヘルニア

症例　51歳　男性　運転手

症状　長い間、運転手の職業病である腰痛に苦しめられ、様々な治療を受けたが段々痛みがひどくなり、仕事にならないので明日入院という時に紹介されて来所した。なお病院で頭書の病名を告げられた。

顔色はどす黒くて生気がなく、あちこち内臓も悪いとのことである。

療法経過　ABやBCカーボンで、足裏、足首、膝、腰、背、後頭部、喉頭、腹と全身に気持ちの良い間、熱く感じるまで照射。特に腰は一号集光器を使って入念に照射したため約四時間かかった。

翌日、腰痛が明瞭に改善したので入院を見合わせ光線治療を続行する。三日、四日と治療を続けたら背骨に弾力が出て身体が軽く動くようになり痛みを感じなくなった。そのため治療器を購入して自宅で治療を続けたいと相談され早速注文。着荷までの八日間の治療で食欲が増し、顔色も良くなった。

治療開始一週間後から会社に出勤した。現在は自宅で照射しながら元気に仕事に励んでいる。なおバランスのよい食事、特にカルシウムを充分とること、ストレスをためないことを注意した。

（春日市　育美健康光線療研　前田　ミサ氏報告　〇九二―五八一―二〇三九）

☆潜在性胆石

（サイレントストーン）

症例　68歳　女性

症状　一年前から右肩が痛むので指圧やマッサージにかかったが治らなかった。その後、偶然に胆石が見つかったため相談と治療を兼ねて来院した。なお本例は以前からサナモアの愛用者である。

患者はこれまで胆石によると思われる腹痛の経験はないが、右肩の痛みは胆石の放散痛の可能性があるので、胆石症に準じた治療をした。

療法経過　ABカーボンを使い、側臥位で右上腹部（胆嚢部）30分（一号集光器）、右肩前後から各10分、背5分、腰10分、足裏15分、側臥位で左右横腹に5分照射。

右肩の痛みは治療を始めて三ケ月でなくなった。そこで病院の再検査を受けたが、胆石は排出し認めないと言われた。以来、三年になるが再発していない。

（川崎市　東京光線治療院　海渡一二三氏報告　〇四四―七二二―五〇六七）

☆私のカルテから

〇背が伸びない

中学二年　男子

幼児期に夏季熱になり三十八度以上の熱が五十日ほど続いた。そのためか発育が思わしくなく、身長は小学校の四、五年頃に一メートル三十五センチ位で止まってしまった。病院でも何処でも駄目なので、光線に最後の望みを託して来たという。

本例は足、膝、腹、頸などに照射したが、身長が一メートル五十八センチまで伸びたと大変喜ばれた。

〇妊娠九ケ月の妊婦

突然、腹部が苦しくなり、寝ることも水や食事をとることも出来なくなる。婦人科で一日中治療を受けたが良くならないため大学病院を紹介された。しかし不安と翌日が日曜日のため妊婦は泣いているので治療して欲しいと頼まれた。

腰と背に15分、左右の内くるぶしに15分、みぞおちに20分照射したが、お茶を飲み、その夜はよく眠れた。治療は三日間続け、元気な赤ちゃんが生まれ喜ばれた。

〇変形性脊椎症

来る日も来る日も痛みに苦しんだ人でも、脊椎や足に集光器で照射野を狭くしてかけると痛みがよくとれるので、是非試して戴きたい。

〇我が家のこと

私の一家は日々光線を愛用している。八十七歳の母も足が丈夫で早足く歩くため、元気ですねと褒められているが、これも光線のお蔭と感謝している。

（千葉県市川市　長生堂　小丹枝一江氏報告　〇四七三―二二―〇九三六）

愛用者だより

☆歯痛

鹿児島県始良郡　御手洗光行

夜中に四歳になる孫娘が歯痛で困っているから何とかして欲しいと電話が有り、早速A、Bカーボンで泣き叫ぶ中5分位かけると泣き声が小さくなり、更に10分程かけると泣き声も止まりもういいと言いだしました。

安らかな孫娘の寝顔を見てサナモアに手を合せたい気持ちでした。

この素晴らしい効果を知った娘が、サナモアを家に置いてお父さんはもう一台別に買ってくれと言われ、十一月に注文致しました。本当に有り難いことで感謝の気持ちで一杯です。

☆風邪

山梨県南巨摩郡　近藤　徳子

先日、風邪を引き、朝から鼻汁が出てティシュを放せない始末。

サナモアの事をフッと思い出し鼻へ光線をかけてみました。翌日、かぜの症状はすっかり無くなり気分も最高です。

少々、血圧が高いのでこれからは毎日サナモアを続けてみようと考えています。

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアABCDと効果が同じという根も葉もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。

もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので呉々もご注意下さい。

（サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標―B―のマークが必ずついてます。）

東京光線療法研究所

バイオメカニカルな関節疾患の治療

―関節軟骨の役割を重視せよ―

山口県　井川カイロプラクティック光線療法研究所
井川豊信

□はじめに

脊椎の歪みを矯正し身体のバランスを正常にするカイロプラクティック療法は、関節に対する治療が主要な作業になりますが、実際に関節の歪みを正し、これなら大丈夫と確信した例でも、次に治療に来た時に再発していることが多く、効果が持続しないことが悩みの種でした。ところがサナモア光線療法を併用するようにしてからは、安定した状態を保てるようになり、症状の改善は勿論のこと、予後が良好になり、治療の面で面目を一新しました。

ところで宇都宮先生が変形性関節症について本紙の二五三号に記述されております。私もかねてよりこのようなバイオメカニカルな関節疾患で認めるサナモアの顕著な効果について、治療する立場から理論的な根拠を研究するのは当然の義務と考えて、この問題と取り組んできました。ここでこの点に関する私の研究結果を述べ、大方のご批判を得たいと思います。

注）バイオメカニカル（biome-canical）のバイオは生命の意味であり、メカニカルは機械的な動作という意味である。即ち、関節に何らかの形態学的な異常があると、バイオメカニカルな機序で関節の炎症を起こし、引いては変形性関節症の原因になる。これを二次性変形性関節症と呼ぶ。

□関節疾患と関節軟骨

サナモア光線療法が関節の病気に何故効くのかと質問された際に、光線の綜合力の結集だとか血液の循環がよくなるのだとかいっても、到底明解な説明にはなりません。問題は光線が関節のどの部分にどのように作用するのかであって、治療もそこから始める必要があります。しかるにこの点に関する記事は、本紙を読み返してみても見当たりません。

私はバイオメカニカルな関節疾患の本態として、関節軟骨の重要性を指摘したいと考えています。関節を治療の対象とする際に、関節軟骨は無視できないポイントです。無論、私の考えがすべてに当てはまるとは言いませんし、その上、関節軟骨の生理的役割についても分らないことが多々ありますが、研究すればするほど関節軟骨の重要性を認めざるを得ないのです。私は関節疾患の治療に効果的にサナモアを用いるためには、神経も血管も分布しない関節軟骨にスポットを当て、その核心に迫ることこそ大切であると信じています。

関節軟骨の構成

成分	量		性質
水	約60%		
プロテオグリカン	残りの40%（基質）	40%	コラーゲンと接合し、関節の応力や歪みに抵抗している。
コラーゲン繊維		60%	引張の剛性と強さを以て、常に内圧の膨張を防ぐ豊富な糖蛋白を含む。
軟骨細肪			浅層、（20%）中層、（50%）深層と並ぶ。（30%）

□関節軟骨の実態

関節軟骨は、よく知悉されていない面もありますが、相対運動における摩擦や摩耗を防ぎ、ストレス（負荷）を分散して衝撃を緩和する働きがあります。そのため構造、機能は物理的に極めて合理的で、秩序正しい生態を持っています。従って、それに逆らわないように、むしろ協力する治療でなければなりません。そのためには関節軟骨の成分と、それぞれがバイオメカニカルな面で如何なる働きをしているのか知る必要がありますので、参考にしてもらうため関節軟骨の構成を表にしました。

ここで大切なことは、コラーゲン繊維の内圧と強度です。なおプロテオグリカンはコラーゲン繊維と協力して関節を保護し、外部から加えられるストレスに対抗しますが、もし過剰なストレスが加えられると関節液を流出します。例えば、関節を強打すると忽ち水が溜まりますが、その速さと量はバイオメカニカルなものなのです。私は患者から「どうして関節に水が溜まるのですか」と質問されたら、「傷がついた軟骨を保護し、早期に治そうとする自然良能の作用です。火傷をしたら、直ぐ水疱ができて黴菌から傷を保護するでしょう」と話したり、「関節を保護している軟骨は、言わば水を含んだスポンジのようなもので、正常なときは適度なしめりけを与えるだけですが、一旦ストレスで界面に傷がつくと水を絞り出す仕組を持っているからです」と説明してきました。実際に正常な軟骨には軽度の透過性がありますから、ストレスの大小と時間の長短に応じて関節液を調整し、関節を保護しています。しかし過大なストレスにさらされて耐え切れなくなると、軟骨は疲労と界面摩耗によって潤滑条件が悪化し、損傷、亀裂、関節液の異常な滲出、変性と言った過程を辿ることになります。

□照射法に工夫を

私の経験では、関節に過大な

（八ページへつづく）

(七ページからつづく)

ストレスが加わって関節軟骨を損傷した場合、サナモア光線療法は迅速に卓越した効果を示します。この際、光線が軟骨に良く当たるように罹病した関節の軟骨の位置を調べた上で、照射角度、集光器の選択と開発、カーボンの組み合せ等、照射法を工夫することで一層の効果をあげています。これは光線が関節軟骨の損傷の修復を促し、コラーゲン繊維の強化をはかり、バイオメカニカルな作用を円滑にするためと考えています。

なお照射に際して、関節の構造と関節軟骨の位置関係がよく分からない場合には、患部に出来るだけ多方向から長時間照射するようにしてください。そうすれば結果的に関節軟骨にも照射したことになります。

□考　案

関節は日々様々なストレス(負荷)に耐えながら、ストレスを分散する機能を果たしています。この作用は健全な軟骨の賜物であり、関節の生命を支配しています。従って、軟骨のバイオメカニカルな構造と作用を改めて認識し、一歩手前で変性を防ぐ努力をしなければなりません。

バイオメカニクスの権威者、アメリカのフランケル教授は、「関節軟骨の障害は、ストレスが大きければ大きいほど全体として迅速に生じるが、修復や再生の能力には限界がある」と述べ、関節のストレスを可及的速やかに取り除くことが関節軟骨を修復する上で極めて重要なことを示唆しました。即ち、繰り返し加えられた衝撃のような外力や関節面の不適合(先天的なものも含む)がストレスに相当しますが、これらはやがて軟骨の変性による骨棘の形成や神経根の圧迫を起こし、痛みや亜脱臼の原因になります。

勿論、関節のストレスを取り除くことが大切なことに異論はありませんが、本稿において特に強調したい点は、サナモア光線療法が障害を受けた関節軟骨の基質を速やかに改善するだけでなく、軟骨表面の潤滑程過を正常にする上で著しい効果があり、関節軟骨の修復を助ける面で極めて重要な働きをしていることです。私はサナモアをバイオメカニカルな原因で発症した関節疾患の治療に使い予想通りの効果を認めたことから、サナモアの軟骨に対する働きを確信するに至ったのです。

□おわりに

稿を終えるについて、私自身が我が身で体験したことを付記しておきます。

ある日、草刈りをしていて、誤って鎌が石に当たり、はずみで左第二指に骨まで達する約三センチ半の切り傷を負いました。応急処置として止血のため指の付け根の部分を草で巻いて圧迫し、帰宅してから傷口を水で洗い、CカーボンとAカーボンを使ってサナモアを照射しました。その折に虫眼鏡で拡大して傷口で起こる変化を見たのですが、薄い膜を張っていくのがはっきり見て取れました。傷は縫うこともなく、サナモアだけを頼りに、一週間足らずで閉じ、何の障害も残さないで治りましたが、軟骨の表面でも同じようなことが起こっているのです。

山口県岩国市保津町一―三二―一六
TEL0827(38)0151

サナモア

Sanamore

サナモア光線協会　趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会
医学博士　宇都宮　光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。
〒153　東京都目黒区目黒4―6―18
サナモア光線協会TEL(03)七九三―五二八一
七一二―五三二二

(本紙の無断転用を禁止します。)